



ぬくもり

2月号

No. 57

[平成27年2月15日発行]

輝く人とまち 人 つながる可見 —「参画」と「協働」による“市民中心のまちづくり”

た た え 合 え る 年 に !

志

人生の力!

絆

人類の要!

友情

人道の素!



(少年の夢)

称え
た

評判の称え合い



(家族のバンザイ)

讃え
た

互いを讃歎し合い



(連綿のちぎり)

湛え
た

満面の喜び合い

目次

- 迎春のかがやき 本センター会長 岡部洋治 ①
- 特集「人権文化の光彩」と「26年度 本センター三大ニュース」
 - 平成26年度 人権啓発入選「標語・300字小説」..... ② ~ ③
 - 〈解説〉・ 応募者総数 : 2,270人(小学生1,239人・中高一般1,031人)
 - ・ 入賞作品(37点): 標語30点 300字小説7点
- コーナー ④
 - ある日その時 ● 可見ぬくもりネットだより ● ぬくもり・まゆちゃん⑰・他

今年の人権・ホットメモリー

[国連]

- ①「あらゆる形態の人種差別撤廃」条約の採択・50周年(1965・12・21)
- ②「移住労働者と家族の権利保護」条約の採択・25周年(1990・12・18)
- ③「児童ポルノ等禁止」条約の採択・15周年(2000・5・25)

[国内]

- ①「人権教育及び人権啓発の推進法」の施行・15周年(2000・12・6)
- ②「児童虐待防止法」の施行・15周年(2000・11・20)
- ③「ストーカー禁止法」の施行・15周年(2000・11・24)
- ④「犯罪被害者等基本法」の施行・10周年(2005・4・1)
- ⑤「生活保護法」の施行・65周年(1950・5・4)

迎春のかがやき

夢を希望にのせて 本センター会長 岡部洋治

新春を迎え、幸せ多い年となるよう、スタートされたことと思います。国内世相の流れは、何となく希望の持てる年のように感じます。一方海外の事件や事故等を見る時、多くの人権的な差別・偏見が奥深く、根強く残されていることを心配します。多様さを受け入れた時から、あらゆることの自由で平等な永遠の関係づくりが大切だと思えます。本市においては、さらに互いがたたえ合いながら心豊かなまちになるよう努めてまいりますので、皆様のご支援とご協力をお願いします。

発行

可見市人権啓発センター(可見市総合会館分室内)
〒509-0203 可見市下恵土5166-1 TEL/FAX 0574(63)7990

ネット

可見ぬくもりネット

検索

アドレス <http://www.kani-nukumorinet.jp/>

特集

人権文化の光彩 平成二十六年

● 人権啓発入賞(標語)

第14回

(選考・関係者その他機関の代表による)

1,869作品
より選考

【最優秀賞】

○ありがとう 言っても聞いても

あなたかい
澤さくら(小学校四年生)

【優秀賞】

○ほんの少しの勇気から

大きなやさしさつまれるよ
杉山有奈(小学校六年生)

○友達は あなたをささえる

だいじな人
高橋優弥(小学校六年生)

○ちがうとこ たくさんあるけど

友だちだ
竹岡勇紀(小学校三年生)

○いじめより やさしさ増える

可児市の子
屋上奈穂(小学校六年生)

○ちよつとまで 言葉のブレーキ

踏んでみて
可児竜一(中学校三年生)

【入選】

・おもいやり みんなのこころ

つなげよう
角井佐智加(小学校二年生)

・ちよつとした 心づかいが 思いやり

中村華恋(小学校五年生)

・勇気だし 「いじめはだめ」と

声出そう
林 涼介(小学校六年生)

・人権は 相手に対する 思いやり

竹内由佳(小学校六年生)

・「ありがとう」 君の言葉で

変わったよ
鈴木愛唯(中学校二年生)

・心の芽 感謝の水で 花咲かそう

三宅康太(中学校三年生)

・言葉より 心で絶とう 差別の根

高根隆之介(小学校六年生)

・身の周り 困っている人見かけたら

声掛け一言 勇気を出して
林 優輝(小学校六年生)

・声かける 私がやらなきゃ

だれがやる！
小倉千鶴(小学校六年生)

・メールでの かげ口ひとつ トラブルに

青山優花(中学校一年生)

・じょうだんで 言った言葉に 落とし穴

野村ゆず(中学校一年生)

・その勇気 仲間をたすける

キーワード
前田伊央里(小学校六年生)

・どしゃぶりの あの子の心に 君の傘

川地琉月(小学校六年生)

・あいさつは であつた人への

ぬくもりだ
吉 采意(小学校六年生)

・気づいてよ 心が痛い その言葉

高橋良宜(小学校六年生)

・ごめんねと 言える一言 心もぼかぼか

小池柚那(小学校六年生)

・思いやる その行動で 笑顔咲く

佐合未羽(小学校六年生)

・「ありがとう」 五つの文字で

広まる笑顔
右近淳乃(小学校五年生)

・思いやり 人の心に つく灯かり

水野由隆(中学校一年生)

・いやな気持ち 話してみれば もつ平気

山本朝陽(小学校五年生)

・いじめゼロ 笑顔があふれる 言葉かけ

渡辺彰瑛(小学校六年生)

・たった少しの心がけ 小さな勇気を

大きな笑顔に
今村一登(中学校三年生)

・まわりをみてごらん 一人でいたい人なんていないから

渡邊亜美(中学校一年生)

・心泣く 仲間外れは やめようよ

森山寛太(小学校六年生)

(26年度)三大ニュース(実績)

年間 学校への人権支援

- ・人権本巡回制度(6周年)
- ・標語(14周年)、300字小説(7周年)の募集
- ・子どもぬくもり教室(3周年)
- ・人権グッズの配布
- ・人権まんが下敷(2周年)
- ・人権しおり(6周年)
- ・(教師)人権講話(約4回/年)



7/24~ 「道徳勉強会」発足(4回実施済)

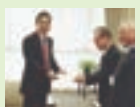
- ・学校での「道徳の教科化」が実施されようとしています。
- ・本センターでは、人権の内にある道徳につき互いの資質向上のためブレーストミングにて学習しています。
- ・H27年度中の市長報告をめざしています。
- ・参加者：17名(2グループ)



8/1~8/15 可児市民「人権意識調査」市長報告

- (概要)
- ・調査人員：1,000名
 - ・(結果)男165人・女241人、不明3人(回答率40.9%)
 - ・対象：20歳以上
 - ・調査方法：無作為抽出法
 - ・実施：7月~9月頃
 - ・調査項目：16(いじめ、DV、高齢者、女性、障がいのある人)等

本調査は、平成3年以降、4年に1度実施し、活動のデータとしています。



※6月号に内容の特集記事掲載(予定)
冊子ご要望の方は、本センターまで

人権啓発入賞

【300字小説】

第7回

401作品
より選考

【選考・関係者とは機関の代表による】

【最優秀賞】

吉村実優(小学校六年生)

「あの子と話すの禁止」クラスのボスの存在の女子が、そう言い出してから、みんなあの子と口をきかない。私も面倒なことに関わるのがいやでなんとなく口をきいていない。あの子から笑顔が消えた。

そんなある日、下校の途中であの子を見かけた。転んで泣いている男の子に声をかけている。とても優しい笑顔。そういえばあの子ってやさしかったな。私が困っている時に助けてくれたこともある。あの子にいやなことをされたことなんて一度もない。あれ？私はどうしてあの子と口をきかなくなったのだろう。口をきかない理由なんて何も無い。

私は決めた。明日の朝あの子に会ったら、「おはよう。」って言うおっ。

【優秀賞】

間宮 輝(中学校三年生)

ある日、私は同級生にいじめられた。理由が分からずに、「うっして、自分なの。」って思った。「もっこれから学校なんかいかない。」とも思った。学校が終わりに家にかえってから宿題をしようとして予定帳を開くと明日の予定が書いてあった。その下には、「今日は大変だったよね、気にしないでね。」とかいてあった。となりの席の子がかいてくれたのだ。涙が出るくらいうれしかった。少しぐらい学校に行こうという気持ち芽ばえて、次の日学校へ行っ

た。たくさん友達、先生がはなしかけてくれた。私は、この経験から人は支えあって生きていくということにすぐ実感した。いろんなことがあるけれどこれから将来に向かって力強く進もうと決心できた。

【優秀賞】

吉野真知(小学校六年生)

その日のバスの中は、暑くてとても混んでいた。ふと見ると人混みの中に、おばあさんが一人、辛そうに立っている。でも、誰も気付かない。私も、この満員のバスの中でせつかく座れたのだから席をゆずりたくないと思っただけ。おばあさんを見ると目が合った。おばあさんは、にっこり笑いかけてきた。優しい笑顔だった。自分は大変なのに座っている私に笑いかけてくれた。そう思ったら自分はずかしくなった。私は立ち上がった。

「あ、あの…どうぞ。」

「優しいねえ、ありがと。」
おばあさんは私の手をにぎり何度も何度もお礼を言った。おばあさんの手はしわしわだったけれど、やわらかくて、あたたかかった。

【入選】

福島広務(中学校三年生)

学校からの帰り道、何か青っぽい物が落ちていたのを見つけた。自転車から降りて拾ってみると、手袋だった。片方だけの手袋は何かに踏まれたようで、汚れていた。名前は見当たらず誰の物かは分からない。でもここを通るのは同じ中学校に通っている人ぐらいしかいないはずだ。迷ったけれど、とりあ

えず持つて帰って洗い、干しておいた。次の日、乾いた手袋を透明のビニール袋に入れて拾った辺りの木の枝にしばらくつけておいた。帰り道に通ったときは、手袋はもうなくなっていた。持ち主が気付いてくれたのか？それなら良かったと思った。次の朝、手袋をしばらくおいた枝に何かを見つけた。「ありがとございませう。」と書かれていた。

【入選】

林由里香(中学校三年生)

私の祖母はよく、「地域の人のあいさつしなさいよ。」と言った。私がいつも歩いている通学路には朝から畑仕事をしている人がたくさんいる。ある日、少し恥ずかしかったけど、「おはようございます。」とあいさつを試してみた。するとその人は「ああ、おはよう。いつてらっしゃい。」と笑顔で返してくれた。たった一言ずつの短い会話だけど、私は心の中がふわっと温かくなった。すこしうれしかった。

私はこの日からずっと地域の人のあいさつを続けている。
「おはようございます。」
「おはよう。いつてらっしゃい。」

この会話が私の一日のスタートになっている。

【入選】

小倉太一(中学校三年生)

よりによってどうしてここに立つんだよ。やっと座れてうとうとしかけた時に、人の気配がしたので、ゆっくりと目を開けると、おばあさんが僕の前に立っていた。優先席に他の学生が何人も座っているのに、声

をかけるのは少し恥ずかしいので、どうしようかと悩んでいると、隣の男の人が立ち上がって席をゆずった。

ああ、先を越された。

そう思って、ふと顔を上げると、男の人が僕にむかってにっこりと笑って言った。

「わかるよ、太一君、勇気がいるもんな。でも、次は頑張れよ。」

なぜ僕の名前を…彼のポケットには「小倉太一」と書いた身分証明書がはみ出していた。

【入選】

東 夢羽(中学校一年生)

いつも学校から帰ってきてお母さんと話をするのが大好きだった。それなのに学校に行く前にお母さんと大げんかをしてしまった。

「いい加減にしなさい！ちか。」

「もっお母さんなんか知らない。」

学校から帰ってきてもお母さんと話ができなくてなんかさびしい。「ごめんさい」その一言で気持ちが楽になって、また仲良く話せるようになるかもしれない。お母さんが私の部屋に入ってきた。私は緊張してしまっただ。するとお母さんが、

「ちか…。朝はごめんね。」

涙があふれでてきた。お母さんが私を抱きしめてくれた。とっってもうれしかった。やっぱり、すこすこお母さんが大好きだ。

標語入賞作品の一部が、**可児市役所人づくり課「可児市いじめ防止パンフレット」(小学生・中学生用)の表紙等**として使われています。

あふロンドの時



国連「人種差別撤廃条約」採択に尽力した人たちのこと(1965年5月4日・12月21日採択)

はじめに、今、世界の人類間の憎悪が「るつば化」しているのが心配です。貧困と教育の格差で国のありようと共に、人種差別という過去のマフマが、噴き出てきたように感じます。

★本条約は採択50周年です。次の二つあゆむ形態の差別撤廃を規定しています。

①人種の優劣には、根拠がないこと。
②人種混交が生物学的に不利な結果をもたらすこと(証拠もない)。

③20条第2項「差別、敵意また暴力の扇動となる国民的、人種的また宗教的、憎悪の喝道は法律で禁止する」。

④「日本が、世界で最初に「人種差別撤廃の提言」をしたのです！」(1949年4月)

▼「牧野伸顯(外相)当時が、パリ講和会議にて提言、賛成多数で採択されたにも拘らず、アメリカ(議長)が、全会一致採択を拒否したのです。」
⑤「主権の人権問題へ尽力した人」

①「ドクトリン」：反ユダヤ主義のナチスは、ユダヤ人等を生物学的区別して約650万人を虐殺した。

▼「形骸半敵」(トリアーナ)：日本の領事官は、日本籍由の脱出(サセ)を約6000人に発行して助けた。

②「アフリカ」：西欧人の植民地化で、黒人を奴隷として人格を否定、家畜と同様、売買もされた。

▼「ネルソン・マンデラ」：その後、発生した黒人差別は、1981年(南アフリカ)「アパルトヘイト」の撤廃、1994年「全民族融和政策」で進展した。

③「アメリカ」：南北戦争後、「リンカーン」による「奴隷解放宣言」がされ、人格が認められた。

▼「キング牧師」等の公民権運動で、差別撤廃の「公民権法」が成立。

④「その他の国々」：日本「同和問題」・アイヌ問題等、オーストラリア「アボリジニ」人狩り問題

【主張】：人権の歴史は、「弱肉強食」の歴史であった。未だ加害者の優越感情は変わっていない。奥深い「心の天」を国民的課題として、言ひが大事。何十層の共通の「善」の蓋を積み上げる以外にない。「敵々」痛めつけられても、逆襲を加えていくならば、たまたま被害者と加害者を入れ替えただけであり、差別の撤廃にならない。「人類間の寛容と融和以外に解決にならない」と叫んだマンデラ、キング、ガンジー等の英知しかないと書えます。(編者)

まゆちゃん 17

【早起きしましょう!】
作：多々/画：miho



(本作品は、全て本職員でつくられています)

心の響き 可児ぬくもりネット だより

(今週のビタミンから)

(本センターホームページ)

春を思う!(雑感)

今週のビタミン 発信日：2013年3月8日編

春恋しさの歌「春は名のみの風の寒さや」と吉丸一昌の詩「早春賦」がある。人は、春の暖かさを追い求める。それは、人の心には常に大きな温かい入れ物があるからだ。

その入れ物に「良いことの証し」を入れ始めるのが春だからである。雪の早春に咲く花は、少ない。雪割草は、知られているがゼンソウは、知られていない。

湿地に自生するこの花は、舟の形をした厚い葉が花を優しく包みわが子を寒さから守る母親のようで、開花の時は自ら20数度の熱を出し覆いかぶさる雪を溶かして花を咲かせるという。

また、春は生きとし生けるものの活動の時、一斉にこの世には自らありと誇示し花や葉を付けたりする。だから人は、自らだけで生きられない畏怖の念と同時に安らぎを感じるのだから。自然からの畏怖とは、恐ろしさでなく共に生きる「ことへの神々しさ」なのである。

春は、もつとここまで来ている。「冬は必ず春となる」との格言を心に置いて、東北や各地の震災の方々は、今も頑張っている。足元のそばで、踏みつけられたタンポポが芽吹いている。こうして「ぬくもり」を気づかせてくれる春である。

浮き沈みの流転の中にある人生。歯を喰いしばって、心で泣きながらでも乗り切つて、祈る。

春から咲き始める花に「片喰み」「カタバミ」がある。

葉は、ハート形で先端を寄せ合った形をしている。「カタバミ」は、球根を持ち地中深く根を張り広がっていく根強い植物である。

花ことはば、「心のかげやき」「喜び」「母の優しさ」と言うように多い。

だから、この葉をあしらい菊形の人文字を配したデザインが「人権擁護委員のバッジ」であることをあまり知られていない。

目立たなくて良いが精神が広がってほしい祈りが込められているのである。

編集後記(春のひかり)

☆新春の初め、成人式を取材して、うれしいことがあった。成人の仲間の輪に先生らしき人を見たからだ。やはり、中学校の先生だった。5年経った教え子が、愛しうらしく、思い出話に興じていた。

「あの当時、どうなるかと心配していたが——」

「凛々しい姿、個性ある姿を、感えたと思いますと——」

(要典)

今の自分があるのは、父母・教師・地域の人等の尽力のお蔭なのである。

詩人の吉野弘は「生命は、すべてその中に欠如を抱き」「それを他者にみたくもらうものだから人間らしいのである」といっている。

昔、恩師から言われた言葉が好きである。

「鳥は翼があるから飛ぶことができたのではない」

「飛ぼう」という意思があるから飛ぶことができたのだ。

「飛びたいという夢のある鳥のみが飛んだのだ」といっている。

若き皆さんが夢を持ち、連綿と続く友情を大切に、負けない幸せな人生を送ってほしいと祈っています。

(編集者：川手靖猛)